



子どもの村東北

News Letter



うちには、僕の席、僕の茶碗、僕のご飯があります。

第2回

おじゃまします。

初めて村を訪れた私と、村の人たち

「子どもの村東北」にある家庭の風景は、子育てに励むどの家庭とも何一つ変わりません。例えば、好き嫌いが激しい子どもと、それに頭を悩ませる親の姿…。育親さんとの会話の中からは、そんなありふれた姿がある日常のひとコマが思い起こされます。「うちの子はね、野菜をまったく食べないの。だからうちで作るカレーの具材に、野菜は一切なし。献立には毎回頭を悩ませていますね(笑)」。ここで生活をする子どもたちの中には手作りの

味を知らずに育った子も多く、反抗するために自分のために作られたご飯に手をつけないことがあるのだとか。「私が作った料理に“まずい”ってはっきり言われたこともありますよ。でも、お預りしている子は不満が溜まって心がパンパンになっていて、いろんなことが許せなくなるからそんなことを言ってしまうのかもしれないですね」。

とはいえ、やはり手作りの味は心をほぐしてくれるもの。子どもからこんな言葉を掛けられた育親さんもいます。「この前『今日は何が食べたい?』って聞いたら、『手作りのお惣菜が食べたい』って言われたんです。子どもが好きそうなカレーやシチューじゃなくて、私が作る“昆布と油揚げの煮物”とか“ほうれん草のおひたし”

がいいって。あれはうれしかったですね。『結婚したい』とまで言われちゃいました(笑)」。安心できる場所があり、安心できる大人がすぐ側にいる。そして、あたたかいご飯を食べられる。愛情を込めた料理の一つひとつが、子どもたちの心を少しずつ穏やかに変化させたのかもしれない。

家庭の中心にある食卓は、一方から見ると戦いの場。しかし別の方向から見つめると、その場に集まる人をつなぐ場になっています。今日もまた、子どもの心とお腹を満たす料理が、そして育親さんたちが悩み抜いて作り上げた料理が、あたたかな湯気を上げて食卓に並んでいるでしょう。(文・及川)



「子どもの村東北」

開村4周年

支援への感謝とこれからへの想い

支援の輪と温かな想いが
開村までの日々を支える

2012年6月に「NPO法人
子どもの村東北」を立ち上げ、
2014年12月に開村、昨年12月
に4周年を迎えました。今までの
歩みを振り返ってみると、たくさ
んの方の支援と協力があつたから
こそ、「子どもの村東北」が子ど
もたちにとって大きな意味を持つ
場所になれたのだと改めて実感し
ます。特に、あたたかく迎えてく
れた茂庭台の皆さんには感謝の気
持ちは溢れますね。開村する前、
一度私たちの想いやこの村の趣旨
を説明する機会を設けたのです
が、そこにたくさんの方が来てく
ださって「私たちにはどんな協力
ができますか?」と声をかけてく
れたんです。とても励まされまし
たね。その時のことは今でも忘れ
られません。そして自分自身、「子
どもたちだけでなく、覚悟を持つ
てこの場所に飛び込んでくれた

育親さんたちもしっかりサポート
していかなくては」と新たに決意
したことも覚えています。

事情を抱えるすべての子に
「家庭の在り方」を伝えたい

2011年に起きた東日本大震
災はこの村設立のきっかけになり
ましたが、私たちはこの活動を通
して震災復興の一助だけを目指し
ているではありません。それは、
被災した子どもでなければ受け
入れられないのではなく、ある事情が
あつて家庭で育まれることが難し
かった子どもたちすべてに家庭の
姿を教えられる場所でありたいと
いうこと。その想いは今も昔も変
わりません。また、この村はさま
ざまなコミュニティでつながる場所
ですが、村を起点に育親、スタッフ、
地域の方へと徐々に大きくなるその
輪の中には支援者の皆さんの姿が
あります。子どもたちがその仕組
みを理解する上で、私たちは今後

も子どもの気持ちや希望に手を
差し伸べていきたい。そして育親
さんを手助けし、見守っていきたく
いと思っています。

恩返しに気持ちに代えて
子どもたちの成長を見届ける

私たちは、どうすれば支援者
の皆さんに感謝の気持ちをお伝え
できるのか。それはとても大事な
ことであり、難しいこともある
と感じています。しかし今後も継
続した支援をいただくためにも、
より多くの子どもたちに寄り添い
ながらこの場所での実績を積み重ね
ていくことが、支援者の皆さんへ
お返しになるのではないかと思っ
ています。プライバシーの配慮から
ここで暮らす子どもたちの様子を
詳しくお伝えすることはできませ
んが、村へ来たばかりの頃はあい
さつもできなかつた子がニコニコと
した表情をするようになったり、
衝突することが多かつた子が打ち
込めるものを見つめ、精神的にた
くましくなっていく様子を、私たち
はすぐ側で見えてきました。さまざま
な過去を背負つてこの場所へ来るこ
とになった子どもたちの役に立てる
よう、私たちスタッフが努力して
いく。そのことも支援者の皆さんへ
のお返しになるのだと思っています。

新しい事業への取組みを経て
支援の期待に応えていきたい

2018年4月、「子どもの村
東北」は宮城県から家族再統合支
援事業と里親マッチング事業の2つ
からなる「親子滞在型支援施設事
業」の委託を受けました。また、
里親制度で受け入れられる子ども
の数は4人までと決められています
が、現在は5〜6人の里子をお預
かりできる「ファミリーホーム制度
(小規模住居児童養育事業)」の
運営に向けた取組みに努力してい
るところです。今後私たちが、
受け入れられる子どもの人数を増
やし、将来世の中の役に立つこと
ができる大人になれるよう子ども
たちをしっかりと育てていく覚悟
です。そして支援をいただいている
皆さんの期待に応えられるよう、
感謝の気持ちを持って日々の仕事に
努めていきたいです。

プロフィール

- 飯沼 二宇 (いぬま かついさ)
NPO法人子どもの村東北理事長
- 小児科医、医学博士、東北大学名誉
教授、石巻赤十字病院名誉院長、日本
小児神経学会名誉会員、日本てんかん
学会名誉会員

トレンドワード

レスパイト

今回のトレンドワードは、親のストレスマネジメントについて子どもの村東北の副理事長であり、たかだこども医院の院長高田 修先生に解説していただきました。

レスパイトってなに？

「レスパイト (respite)」とは英語の『小休止』を意味します。子育てにおいて親が子育てから一時的に離れ、リフレッシュするためのもので、ひとことで言えば、親のストレスマネジメントの取り組みです。もともとは欧米で生まれた考え方で、日本では1976年に心身障害児(者)短期入所事業(ショートステイ)の中で出てきた概念ですが、現在は、里子養育の場や高齢者介護でも「レスパイト・ケア」という言葉が使われ、里親や介護者が毎日の子育てや介護から離れ疲労を癒す休息をとることの大切さが広く認識されています。

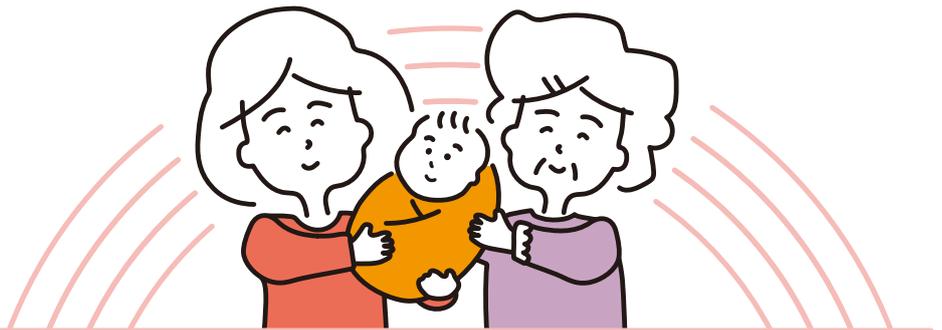
レスパイトが必要な理由とは

現代の子育ての環境は、この概念がますます必要になっています。ご存知の通り現代の子育てはとても苦しいものになっています。核家族化が進んだ母子の密室での子育ては不安が大きく、子どもをしつけなくてはならないというプレッシャーは母親にとって相当につらいものです。不安の中での子育ては、次第に誰も助けしてくれないという不満となり、不信につながります。孤立感が高まると絶望を覚えることもあるでしょう。それが育児放棄や虐待につながることもあるのです。そのような事態に陥る前に、適度に休息することでエネルギーを回復し、子育てや介護に向き合うことが必要です。少しの間、

子育てや介護から離れ、自分自身と向き合い休息を得られることで、改めて子どもや家族へも向き合うエネルギーを回復することができるでしょう。

現代の子育ての厳しさと苦しさ

以前、三世同居が当たり前であった時には、子育てには祖父母も参加し地域での見守りも機能していたと思われます。ですが今はそういうわけにはいきません。今や実祖父母でさえ孤独な子育ての経験者であり、隣人については顔も知らないということが普通でしょう。祖父母の方に「今は子育てが全く違う。今の親は苦しいということを理解してほしい」とお伝えしています。



レスパイト・ケアの使い方とは

厚労省の「里親支援事業」の中でも「レスパイト・ケア」が重要視されており、数時間から数日、子どもを預かってもらえます。事前に児童相談所に申請し一時預け先をコーディネートしてもらいます。里親の場合、親類に預けるということは難しく、里子の個性を理解した他の里親さんか児童養護施設、乳児院など子どもの生活を担保した預かり先が検討されます。また、実親の子育てでは、近隣の一般の人が子どもを預かってくれるファミリーサポート事業、施設や病院が数日預かるショートステイという制度がこれに近いものです。子どもの村東北では、村外の里親さんのレス

パイトを受け入れています。また、村の育親(里親)さんに週に一度は「レスパイト・ケア」を利用するように勧めています。村にはサポートできるスタッフが常駐しているので安心して利用していただけます。

子どもにとっても有益であること

こういった制度を利用する上で注意すべきことは、快く信頼し安心して預けられるかどうかということです。預ける保護責任者も預かる子育て支援者も、預けられる子どもに対して、学校へ行く、外遊びを楽しむ、ご飯を食べてよく眠るという、いつも通りの生活を担保することが欠かせません。それには周囲や地域の理解と

サポートが必要となります。私たち医療の人間も含め、学校や自治体、各団体など、コミュニティのレベルで、子どもの存在を真ん中においた地域づくりを目指したいものです。それが、子どもに優しいまちづくりにつながり、子どもを産み育てたいまちづくりへとつながっていくのだと思います。

PROFILE

高田 修 (たかだ おさむ)

NPO法人子どもの村東北副理事長
小児科医、たかだこども医院院長、
宮城県医師会理事、宮城県塩釜医師会理事、
一般社団法人DICT ネットワーキング研究会
副理事長、NPO法人日本家族カウンセリング
協会認定家族相談士

支援企業・団体 \ 応援 / メッセージ



秋保温泉旅館組合 組合長
株式会社ホテル佐藤
代表取締役社長
佐藤 勘三郎

当館の売店では、おとしから子どもの村東北への募金箱を設置しています。しかし置くだけでは意味がないと、まずは社内に募金箱を置き、スタッフにその意味を共有することからスタート。そうすることで問題への理解や想いが深まったと感じています。近年子どもを取り巻く問題は多くありますが、その根本的な解決とともに、子どもたちの笑顔が増えることを願うばかりです。今後も子どもたちのケアにつながる活動を続けていきたいと思えます。

『ビジョントレーニング』ってご存知ですか？

もともと、発達障害のトレーニングのために開発されたものと言われています。最新の研究では、愛着障害が、脳機能異常をもたらすことがあきらかになり、症状的にも、愛着障害と発達障害は、見分けがたいと言われています。また、愛着障害の子にビジョントレーニングが有効なのは、脳機能のトレーニングという意味に加え、とくに勉強を親（里親）がみてあげる情緒のかかわりを、具体的に提示できる効果があると考えられています。里親が養育する子どもには、発達障害をもつ子どもも多いことから、この機会に関心を持っていただけたら幸いです。

子どもの村東北人材養成研修 第7期公開講座

テーマ「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」

- ◆日時 2019年3月29日(金) 13時～16時(予定)
- ◆会場 エル・パーク仙台セミナーホール
仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル5階
- ◆講師 北出 勝也氏
視機能トレーニングセンターJOYVISION代表、
米国オプトメトリスト

参加無料・託児あり(要予約)
お問い合わせ・申込みは、下記法人事務局まで

ご支援いただいた企業・団体のみなさま

2018年9月1日～12月15日 *敬称略・順不同

支援会員寄付

医療法人五十嵐小児科、医療法人社団原口小児科クリニック、東洋ネクスト株式会社
サンエイシステム株式会社、医療法人社団章仁会くさかり小児科、宮城県小児科医会

医療法人社団栗林歯科医院、株式会社大観楼、みやぎ生活協同組合、三井住友海上火災保険株式会社、合資会社山久商店
国際ソロプチミスト石巻サン・ファン、株式会社鐘崎、東洋ワーク沿岸特区株式会社、リブライト株式会社
株式会社クリーン&クリーン、株式会社H・O・C、株式会社ホームユニバース、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社南東北地区本部
一般社団法人仙台キワニスクラブ、有限会社白川牛肉店、日本インシュアランス株式会社、医療法人出田会、NSC株式会社

一般寄付

白石地区民生委員児童委員協議会、林間聖バルナバ教会、TMコミュニケーションサービス株式会社
仙台市民生委員児童委員協議会児童部会、茂庭台気功同好会、子育て支援グループドリーム・エルりふ

宮城県遊技業協同組合、アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.、茂庭荘杯ゴルフコンペ
日本聖公会林間聖バルナバ教会日曜学校、遊学の郷雄勝石ギャラリー、仙台青葉学院短期大学こども学科、日米親子支援ネット
茂庭台友愛健康クラブ、国際ソロプチミスト仙台アイリス、FUKKO JAPAN ASBL
みちのくノルディックウォーキング、茂庭地域包括支援センター、株式会社TOTO、長谷幼稚園保護者会
栃木照る照る坊主の会、カトリック藤沢教会有志、小牧幼稚園父母の会、うむや、穀町保育園、ほのぼの童謡愛好会、dialog

支援会員 個人会員 935名 / 団体会員 84企業・団体 *2018年12月15日現在

本年度助成頂いている団体

公益法人協会「東日本大震災 草の根支援組織応援基金」
特定非営利活動法人東日本大震災こども未来基金

※当法人は認定NPO法人です。当法人へのご寄付は確定申告の際、税制上の優遇措置が受けられます。



特定非営利活動法人

子どもの村東北

資料請求・お問い合わせ / TEL:022-748-6936

WEBサイトは で検索ください。

【法人事務局】

〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目7-30 角川ビル 511
TEL 022-748-6936 FAX 022-748-6931
E-mail info@cvtohoku.org URL http://cvtohoku.org/

【子どもの村東北 センターハウス】

〒982-0252 仙台市太白区茂庭台2丁目16-9-1
TEL 022-281-9653 FAX 022-281-9659
E-mail center-t@cvtohoku.org